

みどり とてら

樹木のふしぎ／ウメ

みどり探訪／都立農芸高校

緑の歳時記／オシロイバナ

杉並景観録第25号～屋敷林と農地

特集／秋の荻窪散策～三庭園めぐり

落ち葉感謝祭2019ほか

園芸ワンポイント／園芸における雑草との付き合い方

樹木のふしぎ

ウメ(梅)

早春の花といえばウメですね。万葉集にも多く詠まれるなど、古来から日本人には様々な分野で親しまれてきました。

◆サクラと比べたウメの花の特徴は？

同じバラ科サクラ属です。

サクラ… 一気に咲いて散り、香りはほのかで、花柄が長い。

ウメ… 蕾から散るまでが長く、香りがあり、花柄が短い。

◆ウメは日本古来の花ですか？

中国原産で、飛鳥時代に薬用として渡来ました。江戸時代に入り、各藩が梅干を奨励したことから梅林が全国に広まりました。また将軍が花好きだったことから多くの園芸品種が作り出され、今やサクラと並び日本を代表する花となっています。

◆ウメの観賞のポイントは？

愛好家の間では、「密に咲くよりまばらに咲く」「若木より老木」「肥えより痩せ」「満開より咲き始め」といわれています。また、咲く＝「ほころぶ」、散る＝「こぼれる」等表現されます。



みどり探訪

未来を創造する 都立農芸高校

農芸高校ってご存知ですか。野菜や果物、花、植木などを育てたり、食品製造や加工、庭づくり、樹木の管理などを専門的に学ぶ学校です。

明治33年創立という輝かしい歴史があり、東京ドーム約1.6個分という恵まれた環境のもと、農業の専門高校として「環境教育実践宣言校」を掲げています。地球環境に配慮した未来の産業社会を支える持続可能な農業を目指し、有用な技術を身につ

け、実社会で活躍する人材育成を行っています。

地域との関わりでは、実習で収穫した野菜や草花などの即売会を毎週開催するほか、毎年11月の農芸祭では手作りのみそやジャム、植木なども販売し多くの人で賑わいます。また農業技術を学ぶ公開講座やボランティア活動などにも取り組んでいます。

※普段は校内に立ち入れません。農芸祭、学校公開時などにお立ち寄り下さい。



歴史を語るヒマラヤスギ

●校内施設をご紹介●

敷地内には、農場、果樹園、竹林見本園、実習棟がある。農場の一部は、安全や環境に配慮している農場に与えられる「JGAP」「東京都GAP」の認証を取得。



▲熱帯植物が育つ温室



▲スモモの収穫栽培



フルメリア
(温室で栽培)



▲花壇苗の育苗



▲園芸科学科の農場



▲都立高校で唯一の馬術部

●学科のご紹介●

◆園芸科学科

野菜、草花、果樹の栽培・管理などを学ぶ



◆食品科学科

パン、ジャム、みそ造り等食品の製造や微生物、栄養について学ぶ



◆緑地環境科

公園・庭園のデザインなどを学ぶ



都立農芸高校

杉並区今川3-25-1 ☎3399-0191

URL <http://www.nogeih.metro.tokyo.jp/>



<交通>

- ◆西武新宿線「上井草駅」より徒歩10分
- ◆JR荻窪駅よりバス「石神井公園駅」行き「農芸高校」下車
- ◆JR西荻窪駅よりバス「井荻駅」行き「農芸高校」下車

●JR阿佐ヶ谷駅前広場の花壇づくり●



▲園芸科学科の生徒が育てた苗を使った花壇（杉並区と協力して毎年実施）

杉並景観録
第二十五号



屋敷林と農地

杉並の原風景

杉並区はかつて野菜や穀物などを生産する農村地帯でした。当時は畑や雑木林、川沿いには水田が広がっていました。また、農家の家の周りには屋敷林が植えられ、冬の季節風から家や畑を守るほか、生活するうえで様々な用途をもつものでした。

屋敷林を構成する代表的な樹種はケヤキやカシ、スギやタケなどです。枯れ枝や剪定した枝は燃料に、ケヤキの落ち葉は腐葉土にして畑にすき込み、スギは材木として、タケは籠をつくるのに利用するなど無駄なく使われていました。

このように屋敷林と農地は密接に関係するもので、屋敷林と農地のある風景は杉並の原風景と言えるものです。



▲昭和35年浜田山1丁目での田植え風景



杉並区の農業

区内の農家戸数は135戸、農地面積は41.99ha(ともに平成31年4月現在)で東京23区では5番目の広さです。約7割の農地で野菜が作られ、多くの種類を少量ずつ生産している農家が多いです。生産物の大部分が直販されていて消費者のニーズに合わせて品目を増やしたり、施設栽培のフルットマトのように特徴ある品目に絞り込み高付加価値化を図ったりする農家もいます。

産出額の多い野菜はトマトで、多くはハウスを利用して栽培されています。また、ナスやコマツナ、エダマメ、キュウリなども産出額が多いです。栽培面積ではダイコンが最も多く作られています。野菜のほかにはクリやカキ、ウメなどの果樹や花木、植木なども生産されています。



成田西ふれあい農業公園



場所▶成田西 3-18-9
開園時間▶9時~17時(年末年始を除く)

区民が農に親しむ場として、気軽に土とふれあい、農を「みる」「ふれる」「楽しむ」ことができる公園です。
四季折々の旬の野菜を収穫体験したり、農や食に関するイベントを通して、都市における農の魅力や農地の大切さを発信しています。



秋の萩窪散策 ～三庭園めぐり～

11月22日(金)～12月1日(日)

三庭園（萩外荘、大田黒公園、角川庭園）をめぐるさまざまなイベントが催されます。希望される方は、直接会場へお越しください。

問い合わせは、みどり公園課へ



大田黒公園ライトアップ 11月22日～12月1日

会場▶大田黒公園

◆開園時間

平日：午前9時～午後8時
(入園は午後7時45分まで)

土日：午前9時～午後9時
(入園は午後8時30分まで)

◆ライトアップ時間

日没から閉園時間まで



三庭園めぐりガイドツアー 11月25日(月)

集合場所▶大田黒公園洋館前の広場

時間：①午前10時～
②午前11時～
③午後1時～
④午後2時～
(各回1時間程度)

ガイド：杉並文化協会
定員：各回15名程度
(先着順)



萩外荘建物内一部公開 11月26日(火)

会場▶萩外荘

時間：午前10時～午後2時30分
(各回30分 合計14回)
午前9時45分から萩外荘で整理券を配布します。

定員：各回15名(先着順)

その他：靴を入れる袋をご持参ください。
古い建物のためバリアフリーには対応していません。



三庭園スタンプラリー 11月30日(土)

会場▶萩外荘、大田黒公園、角川庭園

時間：午前9時30分～午後4時
※スタンプの台紙は各会場で配布
記念品：萩外荘の設計を行った伊東忠太デザインの龍のラバーコースター、花苗(ランタナ)

★それぞれ先着200名、250名
記念品は萩外荘で配布。スタンプを3つ集めた方にどちらかを差し上げます。



杉並の残したい風景展2019 NPO法人東京を描く市民の会

杉並にあるたくさんの美しい風景から残したい風景を選び描き、写し、展示します。

日時：12月5日(木)～9日(月) 午前10時～午後5時

初日は12時から、最終日は午後3時まで

会場：阿佐谷地域区民センター1階展示コーナーぶらっとりー(阿佐谷南1-47-17)



落ち葉感謝祭2019

令和元年11月30日（土）

目指せ1万人の落ち葉掃き



落ち葉プール

◆落ち葉掃きやお楽しみイベントに参加しませんか。直接各会場へお越しください。

	会場・時間	内容	参加方法
落ち葉掃き (注)	阿佐谷会場 (午前9時～1時間程度)	中杉通り歩道上の落ち葉掃きとリサイクル作業（腐葉土づくりのため落ち葉溜めに落ち葉を入れる）	JR阿佐ヶ谷駅南口駅前広場へ
	蚕糸の森公園・大田黒公園・杉並児童交通公園・井草森公園・天沼弁天池公園・桃井原っぱ公園・下高井戸おおぞら公園（午前9時～）／柏の宮公園・塚山公園・馬橋公園（午前10時～1時間程度）	園路・外周道路の落ち葉掃き	各会場（公園）の管理事務所前へ
お楽しみイベント	井草森会場（井草森公園） (午前10時～午後3時)	落ち葉プール、どんぐり・まつぼっくり・落ち葉などを使った工作、草木染め、焼き芋、飾り炭づくり	井草森公園へ

(注) 汚れてもよい服装で参加してください。軍手、ほうき、ちりとりは、できる限り各自でお持ちください。

※雨天の場合、落ち葉掃きは中止、井草森会場での催しは規模を縮小して実施いたします。

落ち葉掃き団体
募集中

11月15日～12月14日は落ち葉感謝月間です。

私たちに様々な恩恵を与えてくれる落ち葉に感謝し、落ち葉を単にごみとして捨てるのではなく、可能な限り資源として利用し、自然の循環に戻そうという考え方に賛同して落ち葉掃きをやっていただいた団体は、事務局までご一報ください。団体名を活動報告展にて発表いたします。

問い合わせ：落ち葉感謝祭実行委員会事務局（杉並区みどり公園課北公園緑地事務所）
03-3396-5261

緑の歳時記

区内でよく見かける帰化植物

オシロイバナ（白粉花）

熱帯アメリカ原産の多年草

日本には江戸時代の元禄年間にオシロイバナが記録されており、それ以前に渡来して観賞用に栽培されました。各地で野生化しており、区内では善福寺川沿いや庭先などで見られます。

茎はよく分岐して大きな株になり、広卵形で先のとがった葉を対生します。夏から秋にかけて、直径3cmの香りのよい花を咲かせ、夕方から咲き、朝にはし

ほみます。花びらのように見えるのは萼で、色はピンク、紅紫色、白、黄色、絞り等様々です。

実は楕円形で黒く熟し、中に白い粉質の胚乳を含んでいます。この白い粉を化粧のおしろいにたとえて、名付けられました。実をつぶして白い粉を出し鼻の頭につけて遊んだ方もいるのではないのでしょうか。



みどりの相談所の先生に聞く



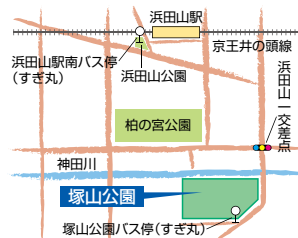
みどりに関する相談は
塚山公園 みどりの相談所

☎03-3302-9387

杉並区下高井戸5-23-12

毎週日曜日午前9時~正午、午後1時~4時30分

休所日: 8・12・1月



園芸における 雑草との付き合い方

日本は雑草天国。「草取りが大変だ」と園芸家の皆さんがよく口にします。でも雑草って厄介者なだけでしょうか。確かに、せっかく与えた養分を横取りされたりはしますが、一方で田んぼの畔、集落の鎮守の森などは、先人が残してくれた雑草活用の究極の修景ではないでしょうか。

雑草を厄介者扱いせず、上手に付き合っていく方法の一例をご紹介します。



●雑草とうまく付き合った場合

雑草とうまく付き合うと、以下のような効果があります。

- 裸地にならないことで、水分蒸発が抑えられ、地温の変化を和らげます。
- 寒害や乾燥から根が保護され、草花・野菜が育つ環境を作ります。
- 土壌の跳ね返りがなく土壌伝染病の感染を防ぎます。
- 共生することで昆虫が増えるが、天敵も増え害虫が軽減できます。
- 雑草が根を張ることで土が柔らかくなり、土壌中の微生物や昆虫が増え、豊かな土壌を作ります。

●抜いた雑草を活用する

雑草を処分しないで活用する方法として、雑草から堆肥を作る方法をご紹介します。

<雑草堆肥の作り方>

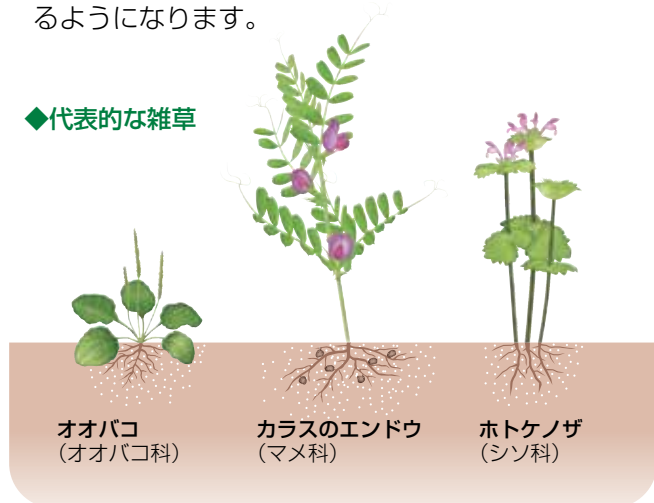
- ①取った草の根を、軽く乾燥させます。
- ②通気性のある容器に土、雑草を交互に積み上げます。
- ③1か月ごとに切り替えし(上下を返す)を行います。別の容器に入れ替えて行うこともできます。その時に水分の補給を忘れずに。
- ④③を定期的に繰り返して雑草の原型が残らなくなったら完成です。約6~10か月で完成します。③の時に鶏糞などを入れると発酵が早く進みます。

●雑草の効果を引き出すための管理方法

雑草を生やさないためには、草を抜く、踏む、刈るなど様々な方法があります。雑草の効果を引き出すには、根を残して刈るという方法もあります。

- ①基本は根を残して草を刈ります。特に、イネ科の雑草は生長点が根際にあるため、根際から刈ります。
- ②①を定期的に繰り返すことで、地下茎で増える雑草(ヨモギ、チガヤ、スギナ)がなくなり、土の中の環境が変わり、短く根の浅い扱いやすい雑草が生えるようになります。

◆代表的な雑草



オオバコ (オオバコ科)

カラスのエンドウ (マメ科)

ホトケノザ (シソ科)

編集後記 「みどりとひと」はみどりのボランティアと協働で編集しています。

- 孫の修学旅行でもらったど根性ひまわりの種3個咲き、ベランダを明るくしてくれました。(水)
- いわゆる「雑草」と言えば、農家や園芸愛好家にとっては天敵ですが、そのたくましさゆえに「雑草のように生きる」「踏まれても立ち上がる雑草になれ」などの人生訓も。しかし、人間が何と言おうとも、道端に四季折々咲く小さな花はどこまでも素朴で可憐に…。(羽)
- 農芸高校は色々な実習を通してその道のプロを育てる素晴らしい高校だということを再認識致しました。(原)
- 東風吹かば 匂い起こせよ 梅の花 令和の春の 気持ちよきかな (石)
- 都立農芸高校の存在そしてその広大さは圧巻。種々の植物に目を見張る。(小)
- 今年の秋はヒガンバナが例年に比べ2週間も遅れて咲きました。天候不順のせいでしょうか。花がすっかりなくなった後、葉が出てくるふしぎな植物ですね。(山)
- 目のかたきになっている雑草にも小さな花が咲くし、強いので、色々な効果があることがわかりました。(三)
- 今号の梅、開花待ち遠しいときは、熱海梅園などで冬至梅(とうじばい)が年内に見られそうです。(中)



みどりの新聞 みどりとひと173号 令和元年11月20日発行

編集/みどりのボランティア

編集・発行/杉並区都市整備部みどり公園課 〒166-8570 杉並区阿佐谷南1-15-1 ☎03-3312-2111

「みどりとひと」は区ホームページでもご覧いただけます。http://www.city.suginami.tokyo.jp/

